



5月5日の「こどもの日」に、なぜショウブ湯に入るの

病気や災いなどの悪い気を追いはらうため

5月5日は、「こどもの日」で、国民の祝日ですね。小さい男の子のいる家では、子どもの成長を願って、庭にこいのぼりを立てたり、家の中に五月人形をかざったりします。

3月3日を「桃の節句」といい、5月5日を「菖蒲の節句」といいます。5月5日には、家の軒先にショウブをさし、ショウブのはちまきをして、ショウブ湯に入ります。家の軒先にショウブをさすのは、火事をさけるまじないであり、ショウブのはちまきをするのは、大人になる儀式をする前に、けがれをはらうという意味がありました。

5月4日の夜は、ショウブで作ったまくらをしてねむり、5月5日には、そのショウブをふるに入れて、病気や災いをもたらすとされる悪い気を、追いはらうのです。

「尚武」や「勝負」から、男の子の節句になった

3月3日は女の子の節句といい、5月5日は、男の子の節句で、「端午の節句」ともいいます。なぜ、5月5日が男の子の節句になったかということ、武士の時代に、この日に、菖蒲打ち(ショウブの葉を編んで、地面にたたきつける遊び)、競馬、流鏝馬などの勇ましい行事が行われたからです。また、「菖蒲」が「尚武(武を重んじること)」や「勝負」と同じ音を発音することから、次第に男の子の節句と考えられるようになったのです。つまり、強い男になれという願いがこめられていたのです。(監修・田代 脩)

